

朝日選書

325



猿谷 要

アメリカ歴史の旅

イエスタデイ&トウデイ

猿谷 要 著

アメリカ 歴史の旅

イエスタデイ&トゥデイ

朝 日 選 書 325

猿谷 要 (さるや・かなめ)

1923年東京生まれ。東京大学西洋史学科卒業。

現在東京女子大学教授。この間にハーヴァード、ハワイ、コロンビア、エモリー、コロラド各大学の客員研究員(アメリカ史)。

主な著書

『アメリカ黒人解放史』(サイマル出版会)

『新大陸に生きる』(河出書房新社)

『アメリカ大西部』(新潮社)

『アメリカ南部の旅』(岩波書店)

『西部開拓史』(岩波書店)

『アメリカ人とアメリカニズム』(三省堂)

『世界子どもの歴史——アメリカ大陸』

(第一法規出版)

『アメリカ論Ⅰ』(日本放送出版協会)

アメリカ 歴史の旅 イエスタデイ & トゥーデイ 朝日選書 325

1987年3月20日 第1刷発行

定価1200円

1987年5月10日 第2刷発行

著 者 猿 谷 要
発 行 者 八 尋 舜 右
印 刷 所 凸版印刷株式会社
発 行 所 朝 日 新 聞 社



〒104 東京都中央区築地 5-3-2 電話03(545)0131(代表)
編集・図書編集室 販売・出版販売部 振替・東京0-1730

©K. Saruya 1987

Printed in Japan

装幀・多田 進

ISBN 4-02-259425-X





ナ

ダ

ニューフランド
ウイ

ニューハンプシャー

マイン

スベリカル湖

ウィスコンシン

ミシガン

オンタリオ湖

ニューヨーク

ボーツマス

ボストン

マサチューセッツ

ロードアイランド

コネチカット

ミネソタ

デトロイト

エリ

ペンシルベニア

フィラデルフィア

ボルチモア

ピッツバーグ

アイオワ

シカゴ

インディアナ

オハイオ

オックスフォード

ウェスト

ヴァージニア

マウンテン

リッチモンド

ヴァージニア

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

ワシントン

カンザス

シティー

セントルイス

ミズーリ

イリノイ

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

セントルイス

アーカンソー

ライプレイ

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

メンフィス

ミシシッピ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

ルイジアナ

テキサス

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

エルパソ

ニューメキシコ

アルバニイ

アルバニイ

アルバニイ

アルバニイ

アルバニイ

アルバニイ

アリゾナ

フェニックス

フェニックス

大

西

洋

湾

メ

キ

シ

コ

湾

COI

本書は一九七七年三月、ヨイエスタデイ&トゥデイ――
星条旗200年物語』として朝日新聞社から刊行された。

目次

歴史の真実と虚偽

黄金を夢みた征服者たち	5
メイフラワー号の神話	11
四〇ドルの酒で買ったニューヨーク	17
ついに上がった革命の烽火	25
独立戦争の陰に消えた夢	31
ミシシッピに挑んだ蒸気船	37
ロシア帝国南進の夢の跡	43
アラモ砦を忘れるな!	49

西部開拓の天国と地獄

55

西部終着駅へ走るオレゴン街道

61

南軍の挽歌・アトランタ攻防戦

67

地球の裏側まで伸ばした触手

73

大地震・サンフランシスコ潰滅

79

政治の栄光と悲慘

一対七でも賛成とした大統領

87

魚河岸同様と映った米議会

93

政府高官が食べた大陸横断鉄道

99

ダイナマイトと銃で闘った労働争議

105

汚職にまみれて死んだ大統領

111

コッペパン一個に行列した大恐慌

117

狂気の赤狩り旋風

123

大統領暗殺は歴史を変えたか

129

原爆投下を肯定する国民世論

135

女の「美德」が揺れつづけた半世紀

141

ミシシッピに散った三人の若者

147

ニューサウスはアメリカを救えるか

153

人間の平等と差別

インディアン娘の激しい恋

161

「涙の道」をゆくチェロキー

167

虐殺だった「栄光」の戦闘

173

大地の霊は白人を憎んでいる

179

アフリカ西海岸からの黒い積荷

185

大統領も奴隷を所有していた

191

奴隷の「女モーゼ」タブマン

197

移民を待ち受けていた運命

203

嫌われたカトリック教徒

209

各界を牛耳るユダヤ人

215

ある日本人妻のその後

221

社会の表層と深層

「近代強奪貴族」の誕生

229

世界を支配するウォール街

235

自動車文明の光と影

241

諸悪の根源、飲酒を禁じよ！

247

暗黒街のマフィア

253

リンチ横行の文明国

259

ブルースからジャズへ

265

南北戦争の名将が創案した野球

271

OKコラル決闘の真相	277
アメリカ庶民のアイドル	285
初めて大西洋を飛んだ女性パイロット	291
「報道の自由」は一日にしてならず	297
年表	303
参考文献	311
あとがき	317
選書版あとがき	319
索引	

アメリカ 歴史の旅

イエスタデイ&トゥデイ

歴史の眞実と虚偽

本章掲載写真の引用文献・所在一覧

(記載以外のものは写真説明文の後尾に記す。＊印は著者撮影)

- p. 8～9 Albert Bettex, THE DISCOVERY OF THE WORLD, London, 1960.
- p. 10 同上
- p. 18～19 Michael Blow, ed., HISTORY OF THE THIRTEEN COLONIES, N. Y., 1967.
- p. 28～29 Richard M. Ketchum, ed., HISTORY OF THE AMERICAN REVOLUTION, N.Y., 1971.
- p. 34～35 Arizona Historical Society.
- p. 39 Ralph K. Andrist, STEAMBOATS ON THE MISSISSIPPI, N.Y., 1962.
- p. 41 同上
- p. 46～47 Paul C. Johnson, PICTORIAL HISTORY OF CALIFORNIA, N. Y., 1970.
- p. 51 Joseph Newman, ed., 200 YEARS: A BICENTENNIAL ILLUSTRATED HISTORY OF THE UNITED STATES, Washington, D. C., 1973.
- p. 53 同上
- p. 54 Paul C. Johnson, 前掲書
- p. 56～57 同上
- p. 63 Martin Gilbert, AMERICAN HISTORY ATLAS, N.Y., 1968.
- p. 65上 Ingvard H. Eide, OREGON TRAIL, N. Y., 1972.
- p. 65下 同上
- p. 68～69 Bruce Catton, PICTURE HISTORY OF THE CIVIL WAR, N. Y., 1960.
- p. 71 同上
- p. 74～75 Joseph Newman, 前掲書
- p. 77 T.H. Williams, R.N.Current & F. Freidel, A HISTORY OF THE UNITED STATES, N. Y., 1959.
- p. 80～81 California Historical Society.

黄金を夢みた征服者たち

一体何が、これほど荒涼とした未知の半砂漠地帯に足を向けさせるような情熱を、人びとの心のかにかき立てたのだろうか。

いくら進んでも、前途には果てしない山なみと、荒野と砂漠が広がっているばかりだった。私がいま自動車でその跡を追ってさえ、その空間の無限さに気も遠くなるほどなのに、四世紀半も昔に馬と羊を連れたスペイン人の探検隊は、何に憑^つかれてこの広漠とした土地を、それも二年も三年もの歳月をかけて歩きまわったのだろうか。

絵のなかで見たことがあるロードランナーという奇妙な名前の鳥が、道の端をかすめるようにして走った。場所はアリゾナの南端、メキシコとの国境で、私が辿^{たど}った砂利だらけの山道は、十六世紀のなかばにスペインのコンキスタドール（征服者）たちが、飢えに苦しみながら歩きまわった場所なのである。その指揮官の名は、フランシスコ・バスケス・デ・コロナド――。

一五一九年から三年がかりでメキシコのアステカ帝国を滅ぼし、さらに一五三二年にはペルーのインカ帝国を征服したスペイン人たちは、その後メキシコの北に横たわる未知の土地に対しても、探検

隊を送りはじめた。碧眼にダーク・ブロンズの頭髮、濃い頬髭ほひげを生やしたまだ三十歳の青年指揮官コロナドもその一人で、彼は一五四〇年、大部隊を編成してメキシコを出発し、彼らがニュースペインと総称していた新しい征服地の北辺を探る長途の旅にいたのである。

黄金を求めてだろうか。もちろん、それはいうまでもない。このときまでに征服されたアステカ帝国やインカ帝国などから、金銀の財宝は海を渡ってスペイン本国に流れはじめていた。土地も財産もないスペイン大衆が、新大陸に黄金の夢を抱いたとしても、それはむしろ当然のことだろう。そして彼らは、イギリス人やオランダ人が後にするように商業活動で富をつくるよりも、その富を一気に探し求める冒険の方に憧れてあこがいた。その上、地上の栄光は天上の栄光と一致するものと考えていたので、コロナドも異教徒に対する布教のための修道士を何人もつれて、探検の旅を続けたのである。日本にも来たフランシスコ・ザヴィエルの布教がちょうど同じ頃だったことを考えると、それはある程度理解することができるだろう。

コロナドにはもう一つ、具体的な夢があった。それは七つの不思議な魔法の都シボラを発見しようということである。イベリア半島がかつて回教徒に攻められたとき、七人のポルトガル司教が逃れて大西洋を渡り、七つの都を建設したという中世の伝説を、他の人びとと同じように彼も信じこんでいた。その時から二十年あまり前、スペインの他の探検隊ポンス・デ・レオンの一行もまた、不老不死の泉がそこにあると信じて、フロリダ半島を二度も探検したほどである。

ヨーロッパ人たちは、中世一千年の間にたくさんの伝説を、自分たちをとりまく外の世界に対して